

李登輝氏訪日、日中ハラハラ 「目的は観光と学術交流」

2007年05月25日06時27分

台湾の李登輝前総統(84)が30日から訪日する。総統退任後3度目で、今回初めて講演や東京訪問をする。李氏は24日、朝日新聞の取材に対し、目的が「観光と学術交流」であると強調した。李氏を「台湾独立派の親玉」と警戒する中国の対応は、李氏の来日後の言動にかかっている。

李氏は東京などで国際情勢などをテーマに3回の講演を予定。「奥の細道」ゆかりの東北地方を回り、最終日の6月9日には記者会見も設定している。

李氏は「奥の細道は一度は歩いてみたかった。講演も文化学術的で政治的な宣伝じゃない」と説明。予想される中国の反発に対しては「中国もソフトになったし、賢くなった」と楽観している。

李氏は01年に病気治療を理由に訪日。04年には北陸などを観光で訪問。いずれの訪日時も中国は日本に強く抗議した。

総統引退から7年がたち、公職にない李氏は形式上は私人だが、独立派政党「台湾団結連盟」の精神的指導者で、次期総統選の与党民進党候補、謝長廷(シエ・チャンティン)氏とも親しい李氏には一定の政治的影響力がある。

01年や04年に日本政府は観光ビザの発給をたてに講演や会見の自粛を李氏に要請したが、台湾向け観光ビザは05年に免除された。今回、首相官邸や外務省で協議した結果、講演の容認を決めたという。発言内容も基本的に制限しない構えだ。

日本側は、李氏の訪日が「観光と学術交流」の枠内で終われば中国の批判は原則論にとどまると見る。ただ、中国は台湾問題には歴史問題以上に敏感だ。温家宝首相は今年4月の来日演説で台湾問題を「中国の核心的利益」と強調。日本側にクギを刺した。

<http://www.asahi.com/international/update/0524/TKY200705240418.html>